

「第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（原案）」
に対する意見募集の結果について

1 意見の募集期間

平成29年2月1日（水）から3月2日（木）まで

2 意見者数と件数

1名1件

3 集計結果

(1) 問1 記述のわかりやすさについて

回答内容	理由
全くわからなかった	この内容で「住みやすい」と思えるのか。若い人がいないのにボランティアで対応ができるのか疑問だし、民間頼み。もっと子育て支援を手厚くし、子供を増やして老人が住みやすい町をつくるべき。子供が増えないと町づくりは無理である。

(1) 問2 内容について

意見の要旨	市の考え方・対応
これまでのやり方ではにぎわいづくりは難しい。イオンや中央から企業を呼び込み、盛大なにぎわいをつくるべき。新屋ガラス工房、土崎みなと歴史館は、意味や価値が不明で、誰が行く施設なのかわからない。高齢者の事故防止のためには常にバスを回遊させるなど、運転させない工夫をするべき。これからの老人はこれまでの家の中から出ない老人とは違う。そこをじっくりと考えるべき。	本市では、人口減少と高齢化が進行している状況を踏まえた持続可能なまちづくりを進めるため、子育てしやすい環境づくりや、新たな雇用の創出、コンパクトな市街地形成と公共交通ネットワークの構築、エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の取組などを推進しているところです。特にエイジフレンドリーシティの推進では、高齢者が支えられるだけでなく、社会の支え手としても、その人の状態に応じて活躍できる、心豊かな活力ある健康長寿社会づくりを目指しております。この取組は、高齢者だけでなく、若者や子どもの世代にとっても暮らしやすいまちの形成や地域社会の活性化につながるものと考えております。